

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：那賀川左岸地震・津波対策事業におけるミチゲーションの実施について		
水系／河川名：那賀川水系／那賀川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：874km ²	整備計画流量：8500m ³ /s(W=1/30)	セグメント：2-2
事業：河川改修	事業開始年度 平成23年度	
目標設定：なし	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：貴重種・特定動植物の保全、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、護岸整備、移植、植樹		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

東日本大震災の教訓を踏まえ、那賀川水系河口部では、近い将来高い確率で発生が予測されている「南海トラフ巨大地震等」に係る地震・津波対策を実施している。

しかし、当該箇所である那賀川河口左岸のワンド干潟は、那賀川水系の汽水域の中でも特に重要な環境で、希少な魚類・底生動物が数多く生息しており、那賀川の生物多様性を支える環境であるが、堤防の嵩上げに伴い、干潟の一部が消失することになる。

事業実施にあたっては、干潟の消失は回避困難であることから、学識経験者の助言をいただきながら、ミチゲーションを実施し、防災対策と環境保全の調和した事業を推進していくことが必要となる。

〈目的〉

適切なミチゲーション及びモニタリング調査等を実施し、早期に河川環境の回復を図る。

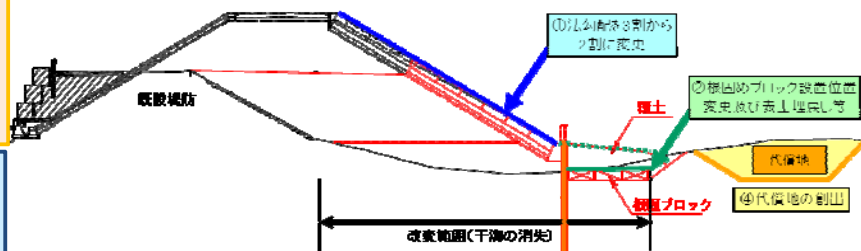
取り組み内容・対策例

〈低減措置〉

- 堤防法面勾配を3割から2割に変更することにより改変面積を低減
- 根固めブロックに穴あきブロック採用し、突き合わせ配列とすることで、間隙を多く確保

〈代償措置〉

- 根固めブロックの設置位置を下げ、被覆しワンドを創出
- 改変区域の代償地として、高水敷を掘削し、ワンドを内に2箇所ワンドを創出



➔ 干潟の消失率は約24%から約10%に低減

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

■ 整備の効果

- ・シルト質に底質を改善したことで出水時の被害を押さえることができた。
- ・地盤高の改善・シルトの投入によりシオマネキの幼生の加入や下流部での底生魚類の増加などの改善効果がみられた。
- ・2年連続大きな出水に見舞われたものの生物の種数・個体数は工事前状況以上に回復していることが確認された。

■ 今後の対応

H28年度も引き続き工事後3年目のモニタリング調査を実施し、干潟のミチゲーションの効果について総合評価を行う予定である。



備考

問い合わせ先 四国地方整備局 那賀川河川事務所 調査課

電話番号 0884-22-6562